

第3回大学問題シンポジウム

大学の自治・自律と学問の自由

—国民のための大学を目指して—



政府・文科省は法改定により教授会の権限を縮小し、学長選考にまで介入して自治を踏みにじり、大学の専断的運営を奨励しています。人文社会・教育系学部などの廃止・縮小政策、さらには軍学共同研究で学問の自由を侵しています。

高等教育に競争政策を持ち込み、基盤的経費を削減し、学費値上げを容認する一方で、財界の願う競争力強化や「グローバル人材」育成を行う少数の大学には厚く予算をつけてきました。／大半が教育ローンという劣悪な公的奨学金制度とも相まって、学生・院生の教育権が奪われています。

また大学は経営面でも苦境に立たされ、私大の4割が赤字で、研究・教育条件の劣悪化が加速し、天下り官僚が大学役員として事態を悪化させています。／この間ほぼ全ての大学が多様な「改革」を試みましたが、一部を除き大半が機能不全、崩壊の危機に瀕し、解決の展望を見失っているかのようです。

政府・文科省の誤った大学政策に抗して、学生や市民が望む真の大学づくりを議論するために、シンポジウムを企画します。

報告1 大学の自治と大学財政—その危機と展望—

三輪定宣さん（千葉大学名誉教授）

報告2 文科省「天下り」問題と大学の自治・自律

晴山一穂さん（専修大学教授）

2017年3月20日（月曜・春分の日）

13:30～17:00（13時受付開始）

中央大学後楽園キャンパス

3300号教室（予定）

アクセス 東京メトロ丸ノ内線・南北線「後楽園駅」徒歩約5分／都営三田線・大江戸線「春日駅」徒歩約5分／JR総武線「水道橋駅」徒歩約12分

正門か東門から入校を。案内掲示あり

参加費（資料代）500円 ※学生無料



主催

日本科学者会議、平和と民主主義のための研究団体連絡会議、全国大学高専教職員組合、全国大学院生協議会、東京地区大学教職員組合協議会、首都圏大学非常勤講師組合